



おしえてっ **自治会** ~まちづくり協議会の巻~

住民の手でつくるまちづくりのルール

「鶴の原まちづくり協議会」は鶴の原自治会(栄町と相模大野五丁目の一部)の下部組織として2006年11月に発足し、今年7月都市計画審議会が承認、ならびに9月の定例市議会にて条例として可決され、実を結ぶことになりました。地区計画は、まちづくり協定がいわば努力目標、紳士協定であるのと違い、都市計画法に定められた住人によってつくられる、住みよいまちでありづつけるための条例です。隣近所のみなさんと個別の事情を理解しあいながら計画をまとめていく努力は、足かけ7年に及びました。その地区計画を実現されたお気持ちをうかがいました。

●隣接地区・豊町に学びつつ



鶴の原まちづくり協議会の3代目代表
猿谷 眞啓 さん

おとなりの豊町が大型スーパーの出店や都市計画道路の開通を機に、2002年3月に全世帯(町内450世帯、町外110世帯)に呼びかけて「豊町まちづくり協議会」を発足させ、住民が主体的に「こんな町に住みたい」と話し合っ、2005年には地区計画の策定を実現しました。

その後、鶴の原地区にマンションの建設問題が起きたとき、豊町の実例が道しるべとなり、問題解決の手法として、「地区計画」に取り組むことになったとのこと。

しかし、鶴の原地区の地権者の数が多く(約720世帯)、かつ、個人情報保護法のしぼりが生じた等、地権者情報の収集が難しいなかで始めることになったと、猿谷代表は語ってくれました。

地区計画の概要の比較いちらん

地区	鶴の原	豊町	桜台
成立時期	2013年9月	2005年6月	1998年6月
地区面積	13.6ha	11.1ha	8.0ha
用途の制限	なし	あり	あり
敷地面積の制限	80㎡	90㎡	100㎡
壁面制限/隣接地	50cm	50cm	80cm
/道路面	なし	50cm	80cm
建物高制限/A地区	11m	13m	9.2m
/B地区	13m	16m	10m
北側斜線規制	なし	7m+1.25m	6m+0.6m
地区施設	なし	公園	道路の拡幅

●高齢者地区のこれからを考えて

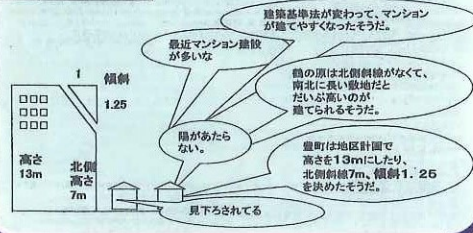
猿谷さんは「なるべくしぼりの少ないものにしたかった」と、地区計画の構想を説明されました。「鶴の原の未来にとって、高齢化をカバーできる子育て世代が入ってこられる形で、住環境の維持保全を考えました」と。再開発計画と違い、既存の住人がいるなかでの計画達成は、その生活実感に答えられる解りやすいものでなければなりません。専門家ではない役員のみなさんで、北側斜線規制などを何回も、勉強会をされたそうです。豊町、鶴の原に次いで、御園二丁目でも「地区計画」づくりが取り組まれています。隣接しあう大野南3地区の試みは、さらに面としてつながることでもまちづくりのモデル地区となるに違いありません。

●ていねいに時間をかけて

いちばん困難で大切なのは、もちろん合意形成です。猿谷さんに体調を崩された経験もあると聞いて、そのストレスの大きさをお察ししました。また、そこには地域全体の課題として強い信念で活動された方々と育まれた、信頼があることを感じました。地区計画づくりが、そのまま地区の人の交流や絆を培うものだと知りしました。

合意づくりのために、ていねいな広報活動が行われました。これは、地区計画を説明する「鶴の原だより」から転載。いろいろな意見を出してもらったため吹き出しを活用するなど工夫がいっぱいでした。

4. 建物の高さ制限



マンション建設のとき地域の600人の方が署名してくれました。署名してくれたみなさんへの責任をどう果たすかを考えたら地区計画になったのです。——広報を担当されるなど、ねばり強く合意づくりに尽力された花輪美佐さんは明るく元気に語ってくれました。

記憶に満ちた風景が わたしたちのまちをつくるから。



紙 上 カ フ エ



最近自分の生活が bono 中心に回りだしていることにふと気づきました。仕事帰りに遠回りをしてライブで買い物したり、夜に時間があるときサンマルクカフェで読書をしたりしています。広い駐輪場、ゆったりとした清潔な店内…。Bono がなかったころのことが今では考えられません。(笑)

気づいてみれば、このまちは、ずいぶん変わりました。まちは、そこに暮らす人たちのつながりとまちかどの風景からできています。うつり変わるからこそ、暮らしのしみ込んだまちかどの記憶は宝もの……。郷土史というほどおおげさでなく、ほんのちょっとむかしを振り返ってみたくてそんな思い出の聞き書き特集です。

相模大野 ちょっとむかしの思い出ばなし

ピックアップ

1950年代のイタリアンガーデン。当時あった黒人用の入口から伊勢丹方向をのぞむ。給水塔のあたりに伊勢丹が建つ。

当時、別棟があり入口はふたつありました。ひとつは将校さんたち白人用で、ひとつは黒人用で分かれてたんです。



ここに住んで長くなるけど、働いているときは会社と自宅を往復するだけで、何も覚えてないんだよね。何があったか、どうだったかなんて、さっぱり。退職して、ようやく地域のことを知り始めたところですよ。

■場外馬券売り場が建設されるという話があった時は、やはり他所に家を建てようと思った。でも、できなくて良かった。結局、御園に家を建てて今も住んでいる。

■場外馬券売り場建設反対のときのお母さんたちの動きは素早かった。あのときから大野のまちづくりへの関心が高まったように思うわ。

FUJI スーパーのあたりに打ちっぱなしのゴルフ場があったし、スクランブル交差点の角にボリング場がありました。PTAの懇親会とか打ち上げにボリング大会しました。

ボリング場・ゴルフ場

まんどう 万灯まつり

平成21年まで中央公園で「万灯まつり」というのをやっていた。工夫して万灯をつくって練り歩いて。小学校単位でも参加したりして。20回を限りにおしまになって、最優秀の万灯には市長賞がもらえた。



16号線と行幸道路は立体交差になっていませんでした。その交差点にあったイタリアンガーデン(4頁の記事を参照ください)のお店。写真は1970年代後半ころ。



■25年前に大野九丁目に越してきた春、庭から大きなガマガエルが出てきて、チョーびっくり。今も、春になると下水溝からカエルが出てくる。よく車に轢かれてるけど…。

蛇と蛙

■大野一帯は、ヘビとカエルがいっぱいいるとこだったな。ヘビは、そうだな、今も見かけるかな…。

■空き地や雑木林がありました。第二幸園の裏手に今も名残があります。大型ゴミの不法投棄が多くて決してきれいな林ではなかったです。マンションや住宅がたくさん増えて良かったなと思っています。遅い時刻になっても家々の灯りがあり、すれ違う人がいるのはいいですね。

雑木林

■この辺りに池のある雑木林があって、虫がいて植物が豊富だというんで、学校の理科の先生が課外授業で子どもたちを連れてきてたよ。あとかたも無くなっちゃったけどね。

暗渠

川をおおっているところを暗渠とって、すごく広い野原だった。バッタやカナヘビがいっぱいて、子どもたちの絶好の遊び場になってました。子どもからカナヘビのことを教えてもらった。トカゲとは違うことを初めて知りました。

狸

深堀川の土手にね、タヌキの親子がいました。野生の。かわいかったわ～。つい20年前。

昭和38年にできたかんがい用水は、相模大野の急激な都市化にともない使われなくなってしまい、現在の緑道となっていますが、川にまつわる思い出は残っています。



現在も残る用水路のあとがこもれびの森で見つけられます。

伝書バト

相模女子大のあるところは、昔、陸軍通信省で、当時の伝達手段は伝書バト。それが、終戦になり伝書バトは機密扱いになって、米軍が来る前に、すべて殺処分しなくてはならなかったそうです。本当は、いけないことだったらしいのですが、ハトを憐れんで、この地区の人たちがひそかにハトをもらったんだって。それでかな、伝書バトを飼うお宅がこのへんでは多くて、そういう優しい気持ちの人がいるまちならいいな、と思って越してきました。



麦畑 おかぼ 陸稲

かんがい用水がひかれるくらいだから、このあたりは、水がなくてね、住み始めたころは。みんな麦畑で、夏は、陸稲が栽培されてたの。春になると、用水の水が流れてね～。



この写真の手前の麦畑のところは現在の黒河内病院、三和のあたり。

あかすの踏切

■すぐ〜待って踏切が開くのは少しの間だけ。お年寄りも困っていたけれど、妊娠してたとき渡るのがとても大変だった。そしたら、上の子が何も言わないのに、後ろに回って背中を押してくれた。…子どもの優しさが嬉しかったわ。

桑

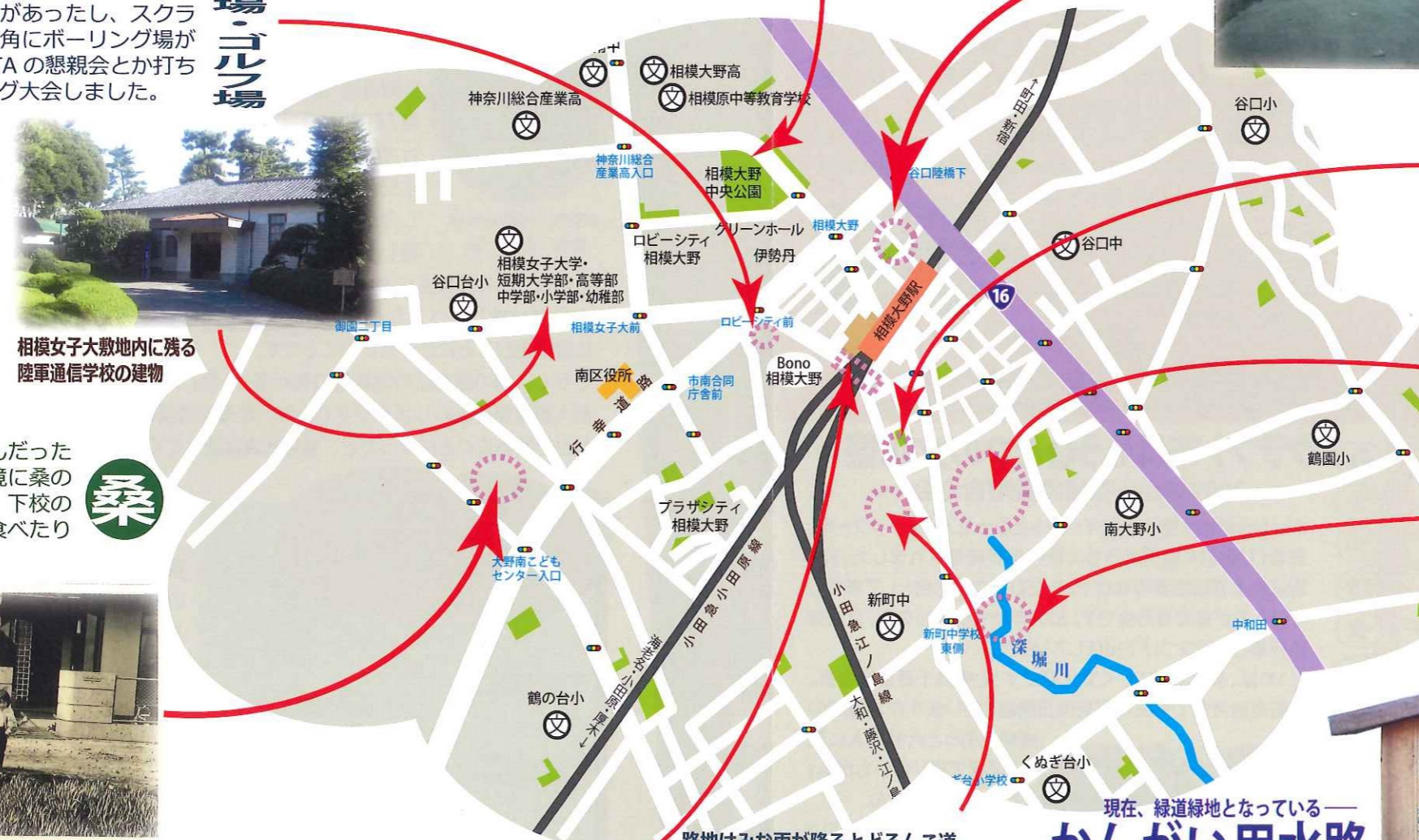
もともと養蚕が盛んだからですかね、地境に桑の木が植えてあって、下校のときとか赤い実を食べたりしてました。

■このあたりは、みな南中に通っててね、踏切もまだ開いてるときが長くて、よく新町通りで産婆さんをしている家の友だちのところへ寄ってから学校に行ったよ。

■踏切のところ、今の跨線橋のちょうど階段を南側に降りたところに、お稲荷さんがあって、牛がいました。祖母がよく背負ってくれて牛を見に行っった…。



路地はみな雨が降るとどろんご道。写真中央奥が新町通り。





このまちのみなさんとともに 時を刻んでいきたい ～老舗レストランの新しい出発～



相模大野の老舗レストラン——イタリアンガーデン

■もともと米兵をお客様にしていた前身のレストランのオーナーが帰国したのを機に居抜きのままお店を譲り受けて、両親が「イタリアンガーデン」を開店したのは、昭和34年のこと。以来、屋根を多少補修しただけで、そのまま営業されてきました。お店の姿は、相模大野に住む者にとってまちの記憶をとどめるシンボルにもなってきました。しかし、さすがに老朽化も進み、地主さんの意向もあって、現在の地での営業は、今年限り、12月25日をもって締めくくられることになりました。

■現在の店主・杉本静也さんは、このお店の2階で寝起きし、文字通りお店と共に育ち、お店を継がれました。お母様は独学で英語を覚えた、きっぷの良い名物ママさん。お店を始めた当時は、為替レートも固定で1ドル＝360円の時代。日本人には、まだまだ外食習慣は根付い

イタリアンガーデン2代目店主
杉本 静也 さん(51歳)

後ろに見えるのは
来店された有名人の写真的数々。
知っている有名人を見つけた楽しさ。



ておらず、ブロークンの英語で米兵のお客様をもてなし、やがて慕われてジャイアンツや芸能界のみなさんが立ち寄りのお店となりました。16号線と行幸道路の交差点に位置する地の利もあって、ドラマなどの打ち上げにも使われることもあるそうです。

■杉本さんは、初めからお店を継ぐつもりはなかったと言います。病気に倒れたお父様の後をそのまま継ぎ、現在はご夫婦で営業。年齢を重ねる毎に、このまちで、このまちの良さを子どもたちに伝えながら営業したいと思うようになったそうです。とくに、移転を考えたとき、地域に支えられていることをひしひしと感じて、このまちで、このまちの人たちとこれからを刻んでいきたい、と。新生「イタリアンガーデン」は、来年、コリドー通りと富士スーパーを結ぶ通りにお目見えします。

■新しいお店は、現在より狭くなっていますが、先代ママさんのコレクションは引き継がれます。来店された有名人とママさんのツーショット写真や、マニア垂涎の的とおぼしきレコードをジュークボックスで聴けるなんて…。装いも新たに古くて新しい営業が楽しみです！

先代ママが集めたレコードと懐かしいジュークボックス。こちらアメリカから取り寄せて新しいものになるそうです。



名物ママと呼ばれたお母様
テーブルの右端に
同じキャンドルが並んでいます。

前身となる「イタリアンビレッジ」と帰国されたオーナー。
テーブルには今と変わらないワインボトルのキャンドル。

★ ☎ 042(742)5279 ※移転しても電話番号は同じです。
ホームページ：<http://www.italiangarden.jp>

クリップ・ボード

★風の市～器と手づくりいろいろ～
12月14日(土)～12月18日(水)
11:00～17:00 ※初日は13:00から

風工場の器、古製の小物、パッチワーク袋、手描きカード、カレンダー、草木染などの展示・即売会です。どうぞ、のぞいてみてください。初めての方、歓迎。



ここずっと市民相談

12月14日(土) 11:00～17:00

2014年から電話にて随時受付となります。
相談窓口 ☎ 042-705-2951

【いずれも会場は同じ】
たいにい・ぼくす
相模大野9-6-18-2F



コミュニティ・カフェ『ここdeコミ』

12月22日/1月19日/2月16日

いずれも13:30～15:30

※原則、毎月第3日曜日

どなたでも出入り自由。2月はみそづくり。

Information

ここずたうんは、このまちでずっと暮らしたいと思う人、思ってもらいたい人のための情報紙となることを目指しています。

ご意見、投稿、記者志望者はここずたうん編集室へ

【TEL】042-745-0676 【FAX】042-742-0447

【E-mail】info@cocozutto.jp

み
つ
つ
け
タ
ウ
ン

クラフト市はもうひとつの文化祭 ～2009年から参加の豊町自治会～

すっかり相模大野の名物イベントとなったアートクラフト市。去る11月4日も盛況のうちに秋の市が開催されました。279組におよぶ出店者のなかで、ただひとつ自治会として参加しているのが豊町自治会です。2009年から秋の市のみ、自治会の行事としてつづけて出店しています。

「いわば、まちに出ていく文化祭です」と中島千尋自治会長。豊町自治会館でも文化展を同日開催していますが、「趣味の成果をもっと大勢の人に見てもらえて張り合いも出る」と自治会のみなさん。行動的文化展を実現している自治会! みにつけた!



豊町自治会のお店。右端2人目が中島会長。

『季刊・ここずたうん』

【発行日】2013年11月20日

年4回発行・無料

【発行者】



NPO法人 ここずっと
〒252-0303 相模大野9-6-18-2F
ここずたうん編集室